

永岡遺跡

筑紫野市大字永岡所在墓地群の調査

筑紫野市文化財調査報告書

第 6 集

1981

筑紫野市教育委員会

序

筑紫野市は、福岡都市圏内にあり、近年急激な開発の波にあおられています。

当市永岡は甕棺墓の多い所で、ここも宅地開発されることになりましたので、昭和55年4月から緊急発掘調査を行ないました。

本書は、その調査概報であります。文化財保護及び学術研究の一助ともなれば幸いに存じます。

なお、調査及び報告書の作成にあたって、多大のご協力をいただいた福岡県教育庁文化課をはじめ、九州歴史資料館、九州種苗株式会社、西鉄不動産株式会社、地元作業員の方々に深く感謝の意を表します。

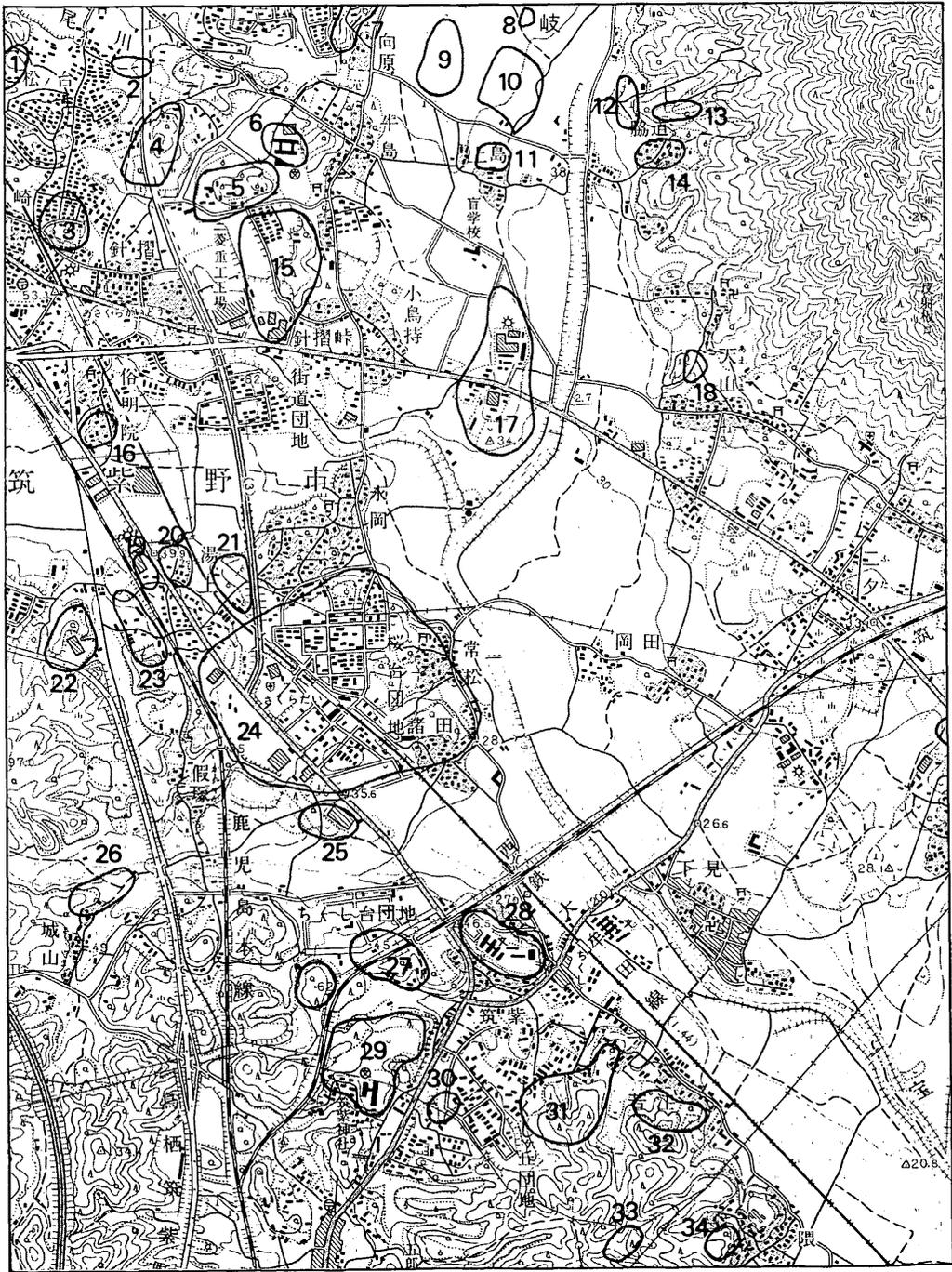
昭和56年3月5日

筑紫野市教育委員会

教育長 萩尾利弘

例言

1. 本書は、宅地造成事業に伴い、昭和55年度に実施した永岡遺跡の発掘調査の概報である。
2. 調査は、九州種苗株式会社ならびに西鉄不動産株式会社の委託を受けて、筑紫野市教育委員会が実施し、福岡県教育委員会の指導を受けた。
3. 本書の執筆ならびに掲載図の作成・製図は浜田信也が行ない、掲載写真の撮影は浜田が行なった。
4. 本書の編集は、浜田が担当した。



第 1 図 永岡遺跡周辺弥生遺跡分布図 (縮尺1/25,000)

1. カケ塚遺跡 2. 大曲川遺跡 3. 針摺遺跡 4. 野黒坂遺跡 5. イカリノ上遺跡
 6. 上ノ浦遺跡 7. 高雄遺跡 8~11. 御笠地区D・E・F・G遺跡 12. 宮崎遺跡
 13. シメノグチ遺跡 14. 脇道遺跡 15. 峠山遺跡 16. 俗明院遺跡 17. 宮崎遺跡
 18. 竹敷町遺跡 21. 永岡遺跡 22. 大牟田西遺跡 23. 大牟田東遺跡 24. 常松遺跡
 25. 木山遺跡 26. 城山遺跡 27. 倉吉遺跡 28. 矢倉遺跡 31. 前畑遺跡
 32. 天神社裏山遺跡 18.19.29.30.33.34は散布地

1. はじめに

永岡遺跡は、九州種苗株式会社の農場内に所在する。同遺跡は、昭和47年に国道バイパスの建設にかかる事前の発掘調査で、その一部が確認されている。昭和54年、九州種苗(株)が所有する農場の一部を宅地造成したい旨の協議を筑紫野市教育委員会に申し入れた。市教育委員会は、当遺跡の保護措置について協議を重ね、県教育委員会ならびに造成地の譲渡先である西鉄不動産株式会社を加えた協議の結果、試掘調査を実施し、遺跡の有無あるいは規模を確認することとなった。同年3月に試掘調査を実施したが、遺跡は宅造予定地の東半部に集中して遺存し、甕棺墓等の遺構が確認された。その後の協議で、市教育委員会が54年度に実施する発掘調査の日程からして同年度に当遺跡の調査が困難であるとの事情から、協議者の了解を得て、55年度に実施することとなり、同年4月2日から6月7日まで発掘調査を実施した。

なお、調査に要した経費は、九州種苗(株)および西鉄不動産(株)に負担をお願いし、これに市費を加えた。

発掘調査の構成員は次のとおりである。

総括・庶務

筑紫野市教育委員会	教育長	萩尾	利弘
	社会教育課長	武藤	久雄
	〃 係長	豊福	茂美

発掘調査

福岡県教育委員会管理部文化課	主任技師	浜田	信也 (調査主任)
	〃	橋口	達也
	〃	川述	昭人
	〃	中間	研志
	〃	馬田	弘稔
	技 師	池辺	元明
	〃	伊崎	俊秋
筑紫野市教育委員会社会教育課	主 事	山野	洋一
	〃	山村	淳彦

また、発掘調査にあたっては、九州種苗(株)に多大のお世話をいただき、記して謝意を表します。

2. 遺跡の概要

永岡遺跡は、福岡県筑紫野市大字永岡に所在する。筑紫野市は、福岡市の近郊都市で公・私有鉄道の沿線にあり、近年の道路網の整備によりベッドタウン化の現像が著しく、大小の宅地造成がいたるところでなされ、真新しい藁の建ちならぶなかに往時の自然環境が失なわれつつある。

永岡遺跡の所在する丘陵は、私鉄沿線にあり周辺地区は開発の手が加えられ、いずれ当遺跡にもと考えられていたが、種苗の育成農場であったところからずいぶん先のことと思われていた。

当遺跡の所在する丘陵は、福岡平野と筑紫平野の接点付近にあり、東に三郡山塊、西に背振山塊が非常に接近し、平野部のせばまる場所である。三郡山塊の一つである宝満山を源とする宝満川が南に筑紫平野の西部を貫流し、その流域には多くの遺跡が遺存し、同川の上流西岸に展開する丘陵上当遺跡は所在する。この丘陵は、背振山塊より派生する低丘陵で、おおむねヤツ手状に展開し、その北半部に永岡遺跡を中心とする遺跡群が、わりあい大きな谷をへだてた南半部には常松遺跡を中心とする遺跡群が所在する。

当遺跡は、昭和47年4月に国道3号線バイパスの建設に伴い、その南半部が永岡甕棺墓遺跡として調査されている(註1)。当遺跡の東側は、昭和45年に弥生時代中期の溝が発見された永岡遺跡があり(註2)、広く永岡遺跡というものが丘陵上に展開し、集落に対峙して当遺跡の墓地があったものと考えられる。当丘陵の南には常松遺跡が広く所在していた。宅地造成に伴う事前の調査で弥生時代の住居跡・甕棺墓・大溝が検出され、大溝は丘陵を横断し、集落と甕棺墓を中心とする墓地を区別するという調査報告がなされている(註3)。永岡遺跡群も常松遺跡と同様な形態を示すものと想定される。

当遺跡の前回の調査では、南北に二列に並ぶ甕棺墓群の両側(東と西)に墓域を示す竪穴・溝があり、これらは祭祀を兼ねた遺構であることが確認されている。甕棺墓53基・土壙墓4基・竪穴9基・溝1条が検出されている。今回の調査は、その北半部であるが、甕棺墓99基・木棺墓20基・土壙墓6基・竪穴20基のほか中世代に属する土壙3基が検出された。これらは前回調査地区と同じように、成人棺が二列に南北にやや弧を描きながら並び、これに小児棺が重複し、これらの両側にも墓域を示す竪穴が並行している。前回調査分も含めると全長約160m、幅14m前後で、全体にゆるやかな弧を描き遺存しているが、その内・外側には同時期の遺構は何もない。今回の調査では、木棺墓が検出されたが、甕棺墓と重複しているものもあり、甕棺墓と同時期に造営されたものである。南北に長く造営された当墓地は、甕棺使用の甕形土器からして、北から南に向けて順次埋葬されていたものと考えられ、その配列からして特定の規定に従って埋葬されている。

また、今回の調査でも成人棺に比して小児棺が非常に多く、当時の小児の死亡率の高かった

ことが想定され、ほとんどが成人棺の上部に重複して埋葬されていることも前回の調査に続き再確認され、当時の葬制の一端をかいまみることができる。

さらに、特筆すべき点は、甕棺内に遺存する人骨遺体の2例に青銅製利器の先端が突き刺さっていたことであり、内1例にはさらに石剣が刺っていたのではないかという状態で検出されたことである。これは、当時における青銅器の祭祀的利用というよりも実際の利用を認知すべき重要な発見であって、さらに石製利器の併用が(戦闘が個人的あるいは集団的なものにかかわらず)じゅうぶんあったと考えられる。

当遺跡は、弥生中期前半頃における墓制や金属器の遺存状態から当時の社会情態を知るに貴重な資料を提示しているもので、現在前回分も含め整理・研究を進めているところであり、今後の進捗をまって詳しく報告したい。

- 註1 「永岡甕棺遺跡・本文編」『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』第5集 1977
福岡県教育委員会
「永岡甕棺遺跡・図版編」『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』第4集 1976
福岡県教育委員会
- 註2 「永岡遺跡」『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』第1集 1970 福岡県教育委員会
- 註3 「福岡県筑紫郡筑紫野町常松遺跡調査報告書」別府大学文学部考古学研究報告書1 1970
別府大学文学部



1. 永岡遺跡全景（北から）



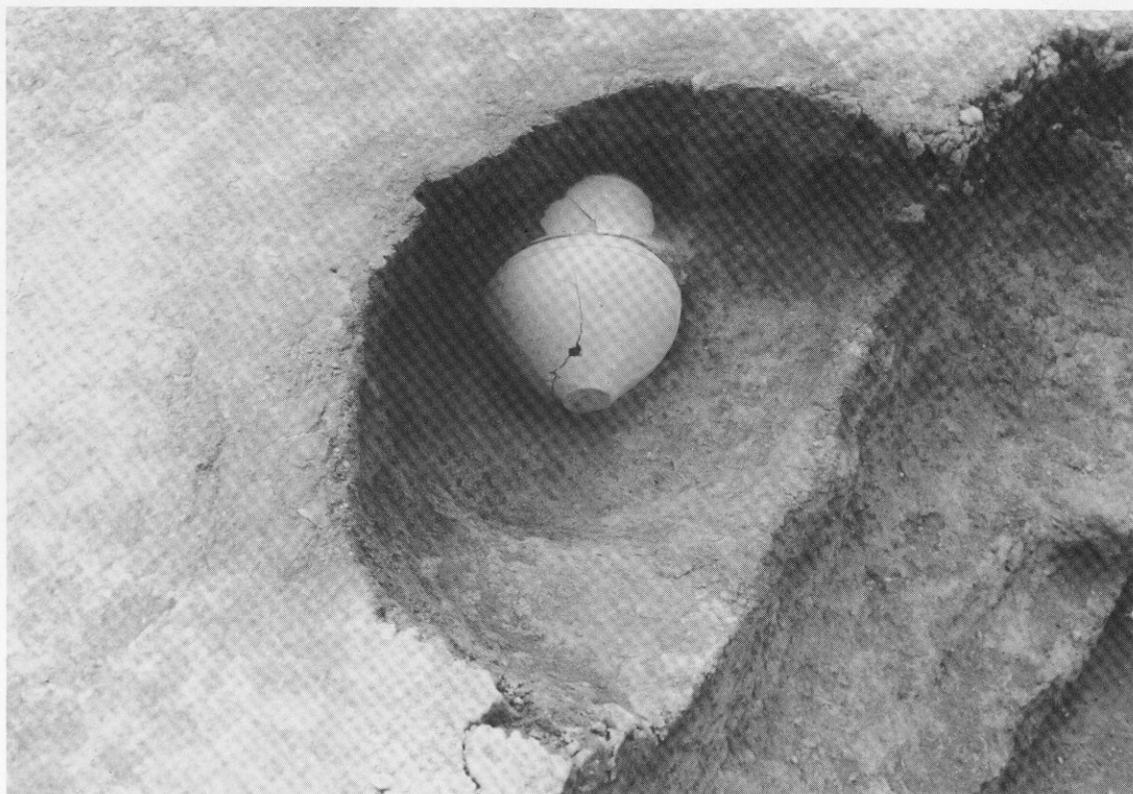
2. 永岡遺跡全景（南から）



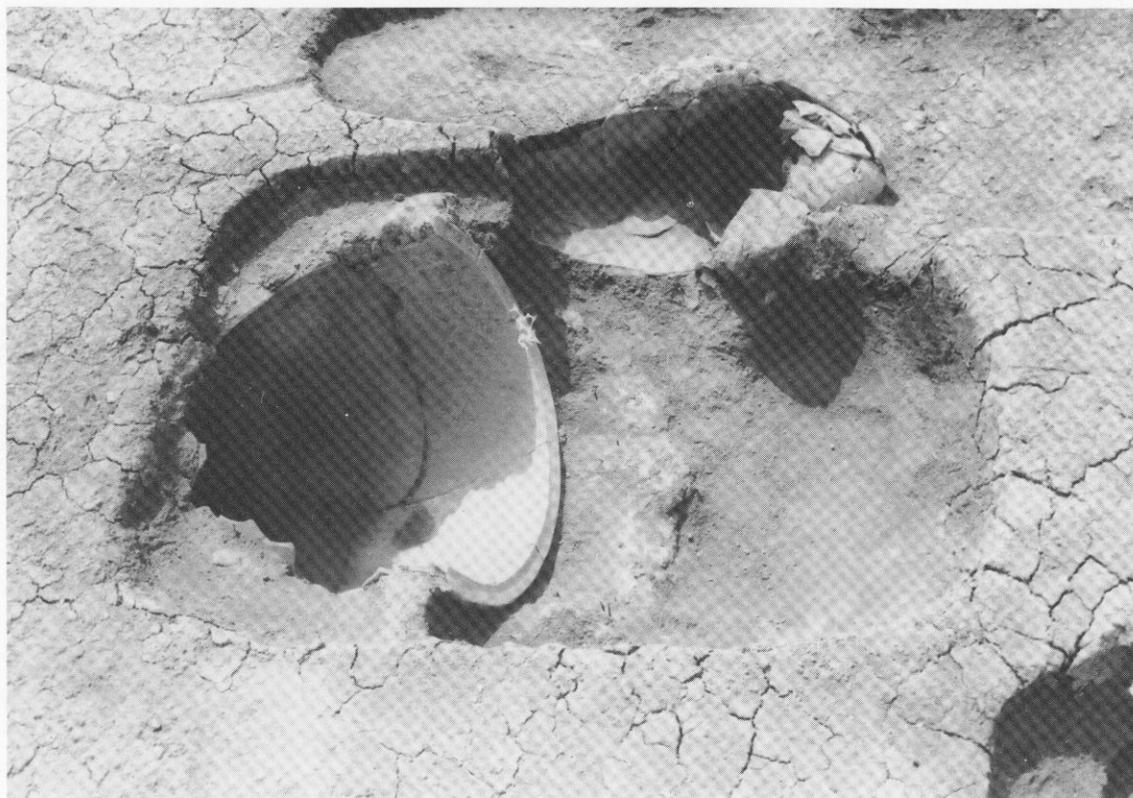
1. 永岡遺跡近景（北から）



2. 永岡遺跡近景（南から）



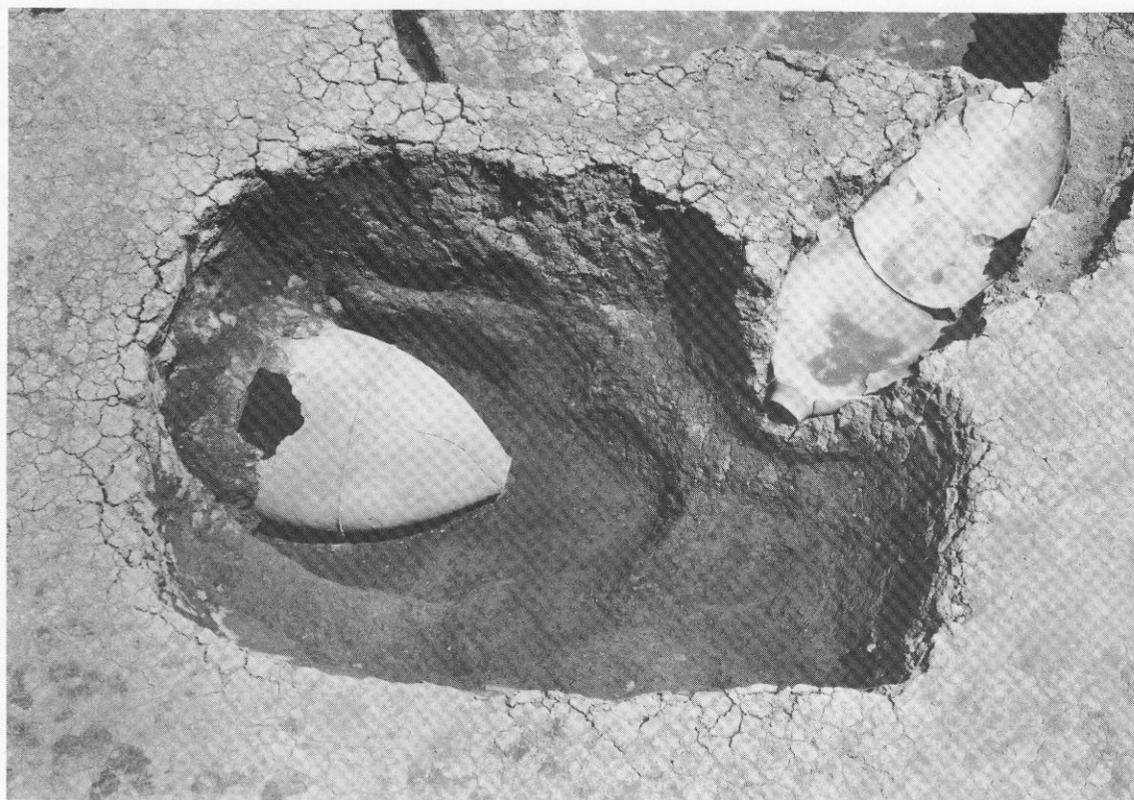
1. 2号甕棺墓



2. 6号(手前)・7号甕棺墓



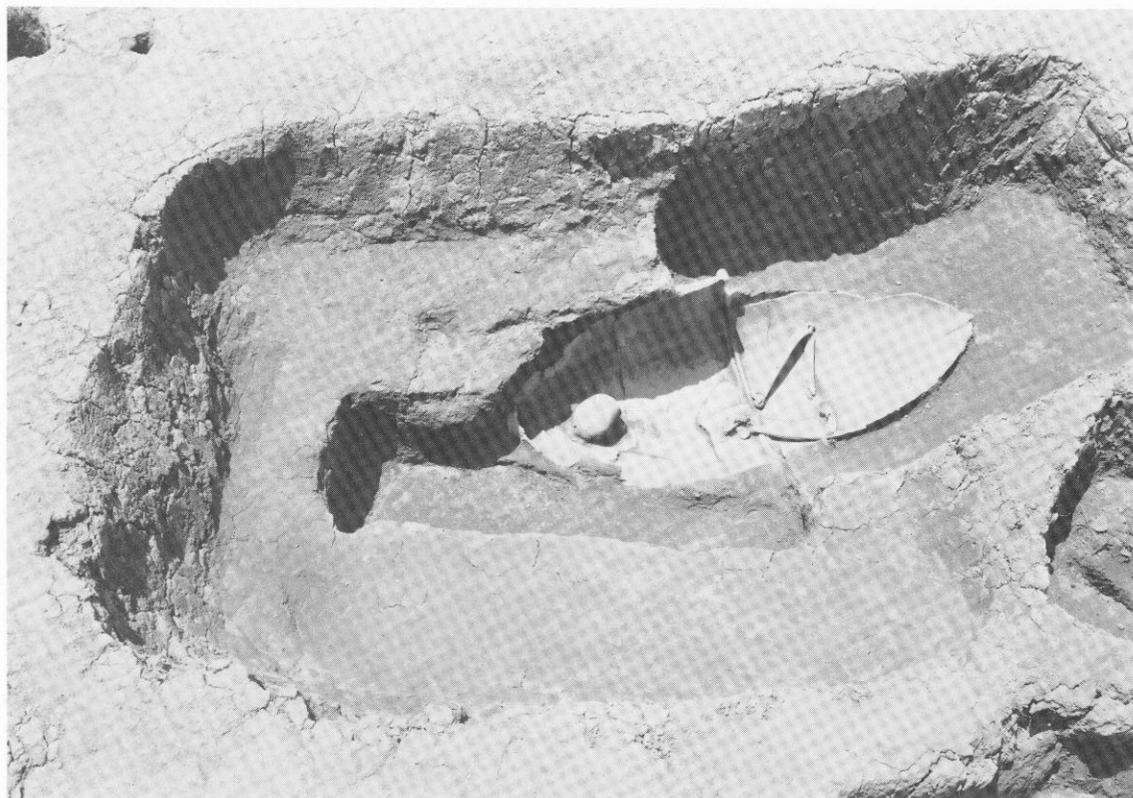
1. 8号(手前)・29号甕棺墓・3号木棺墓



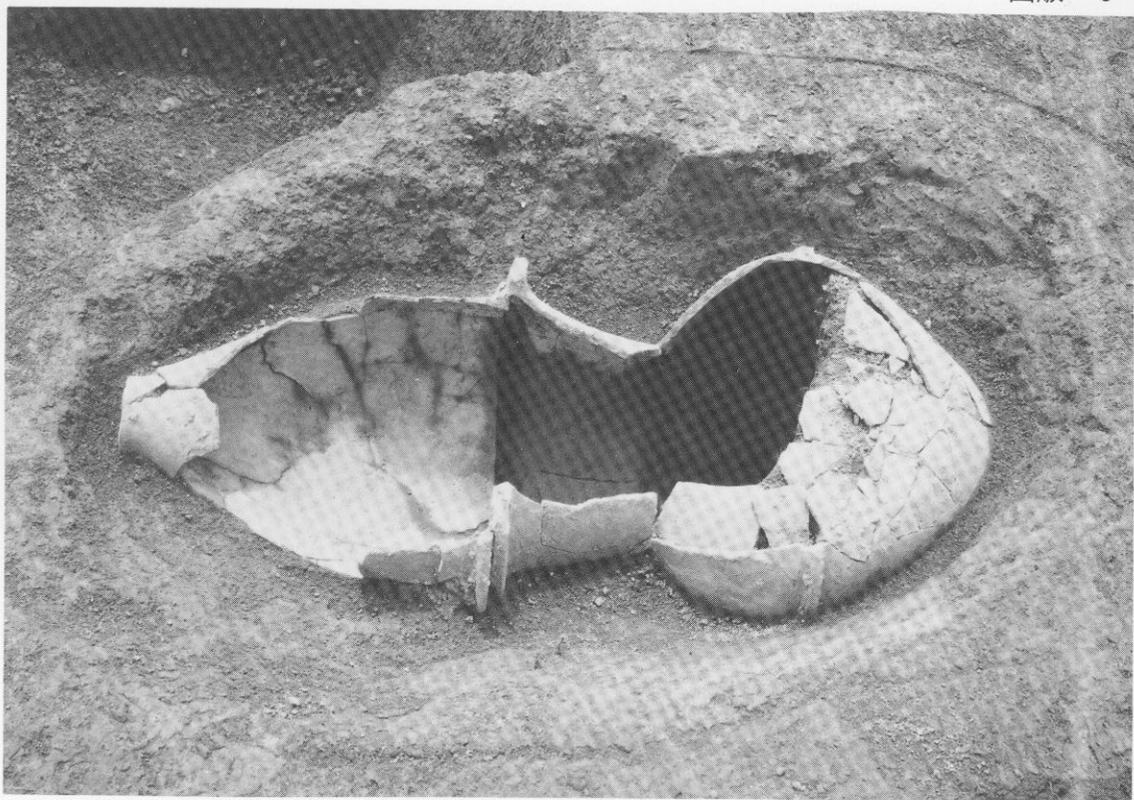
2. 15号(手前)・16号甕棺墓



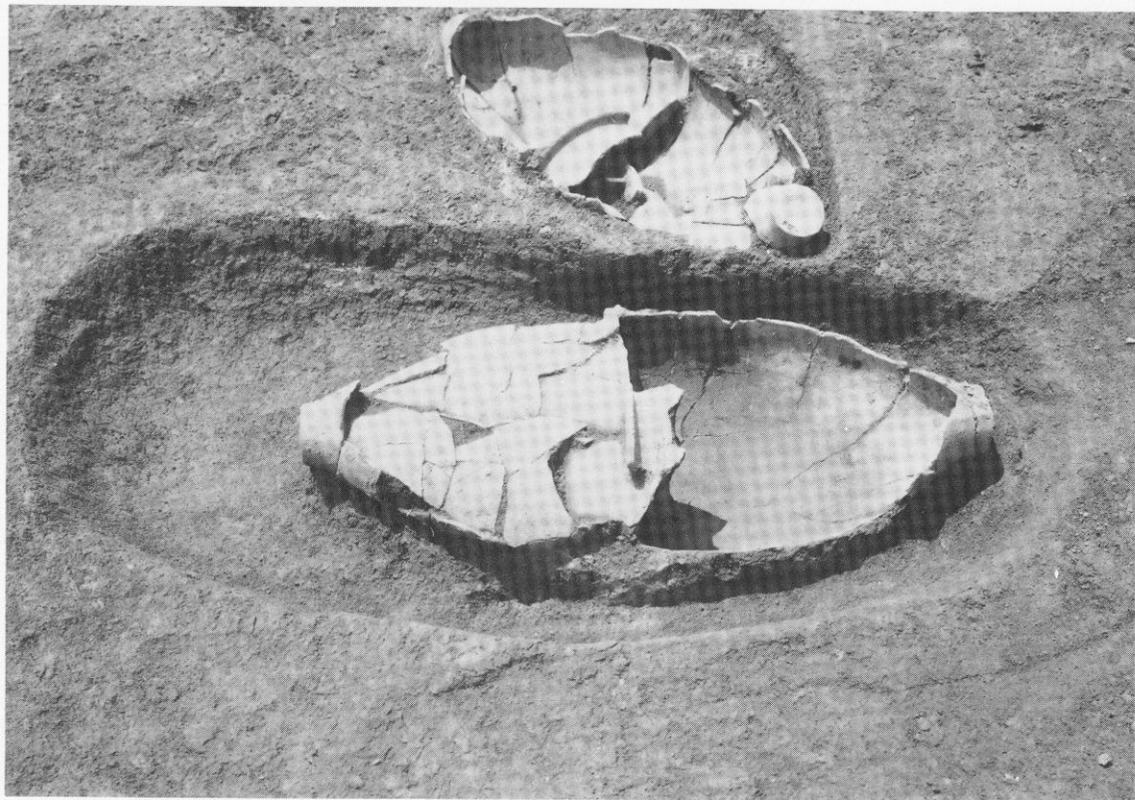
1. 20号(左)·23号囊棺墓



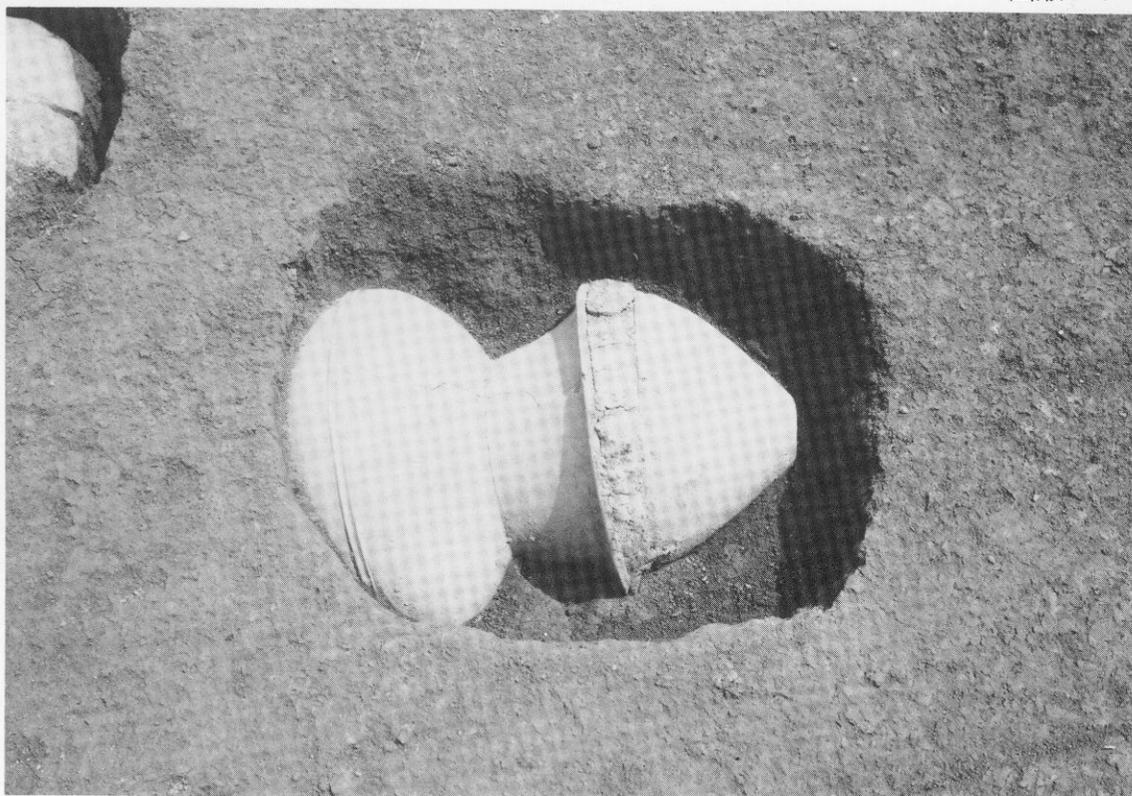
2. 19号木棺墓·21号囊棺墓



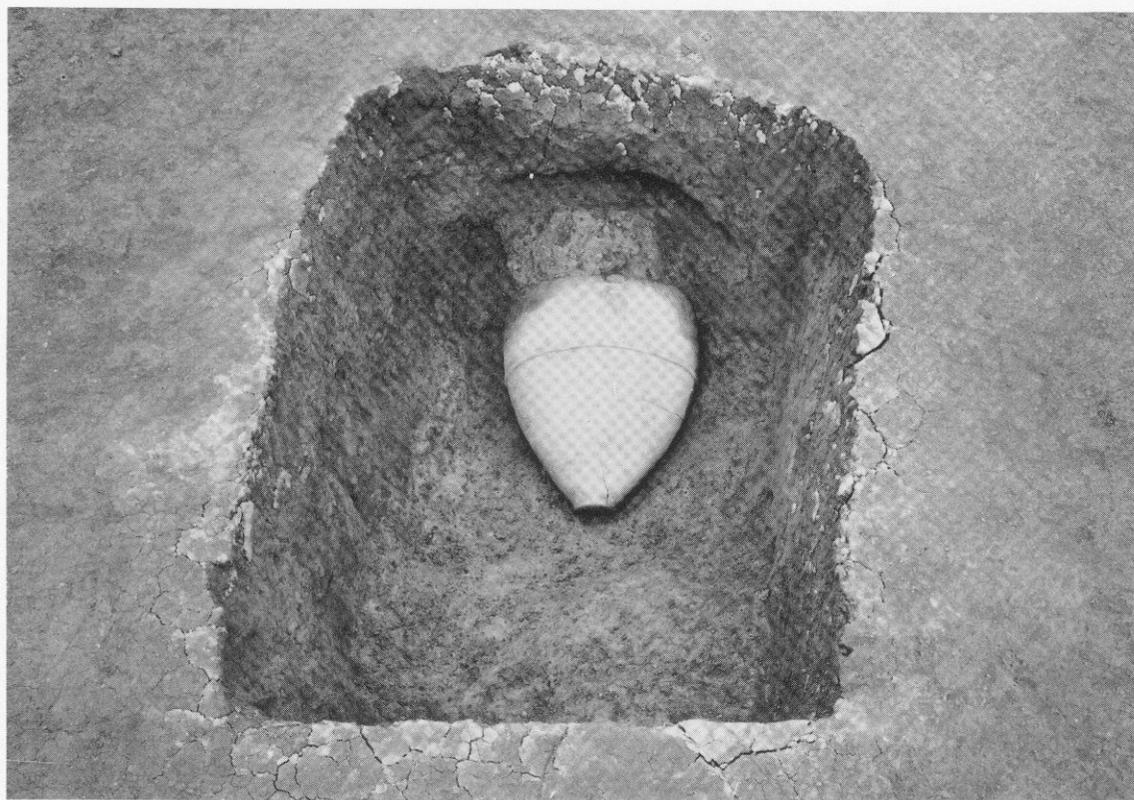
1. 33号甕棺墓



2. 35号(手前)・36号甕棺墓



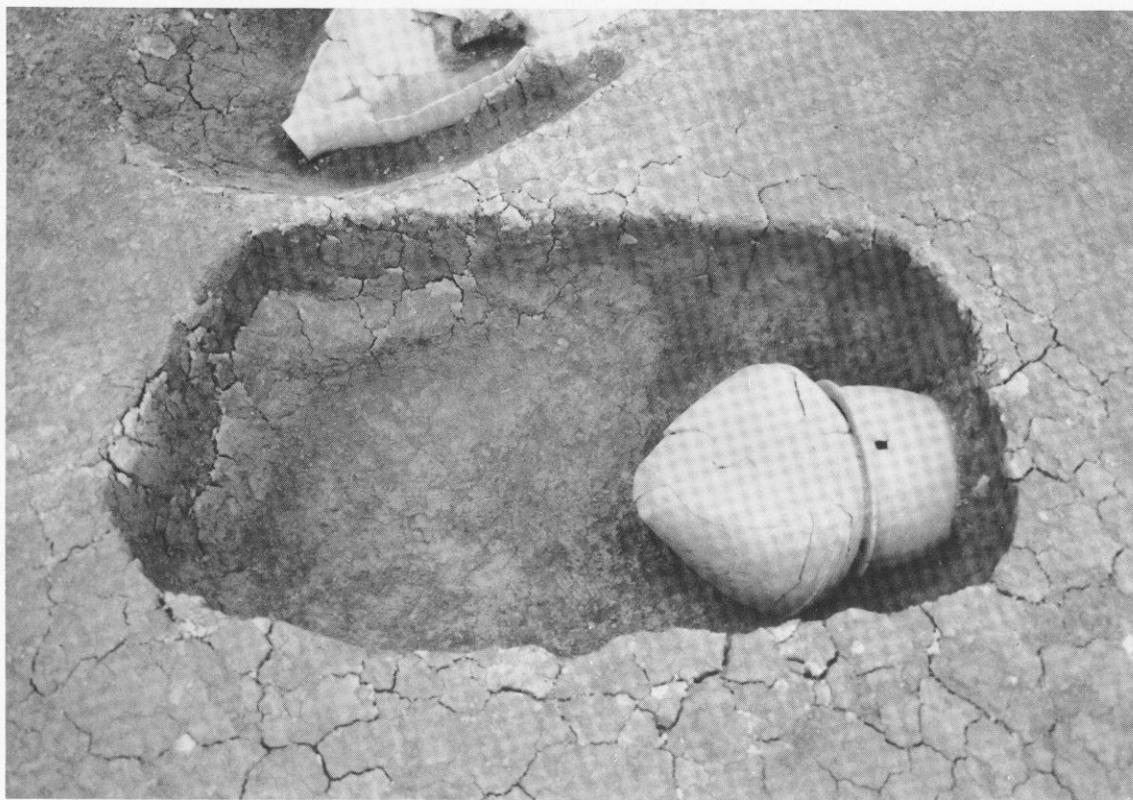
1. 37号甕棺墓



2. 40号甕棺墓



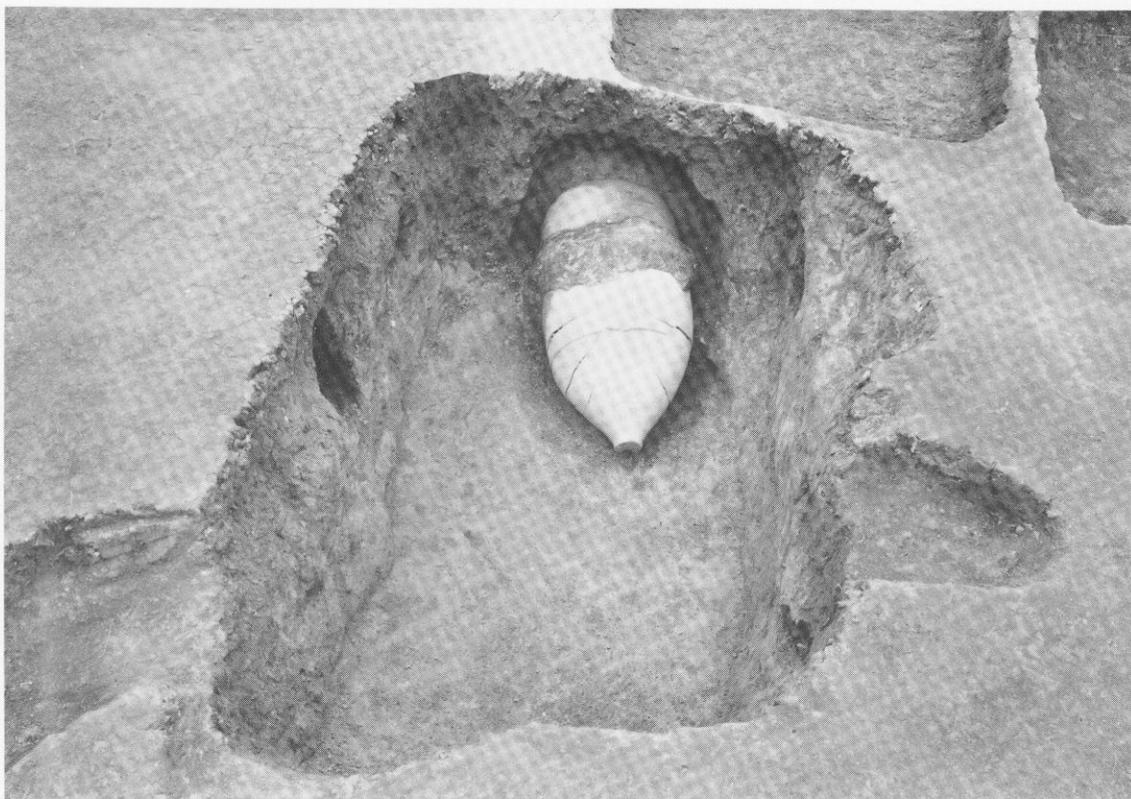
1. 42号甕棺墓



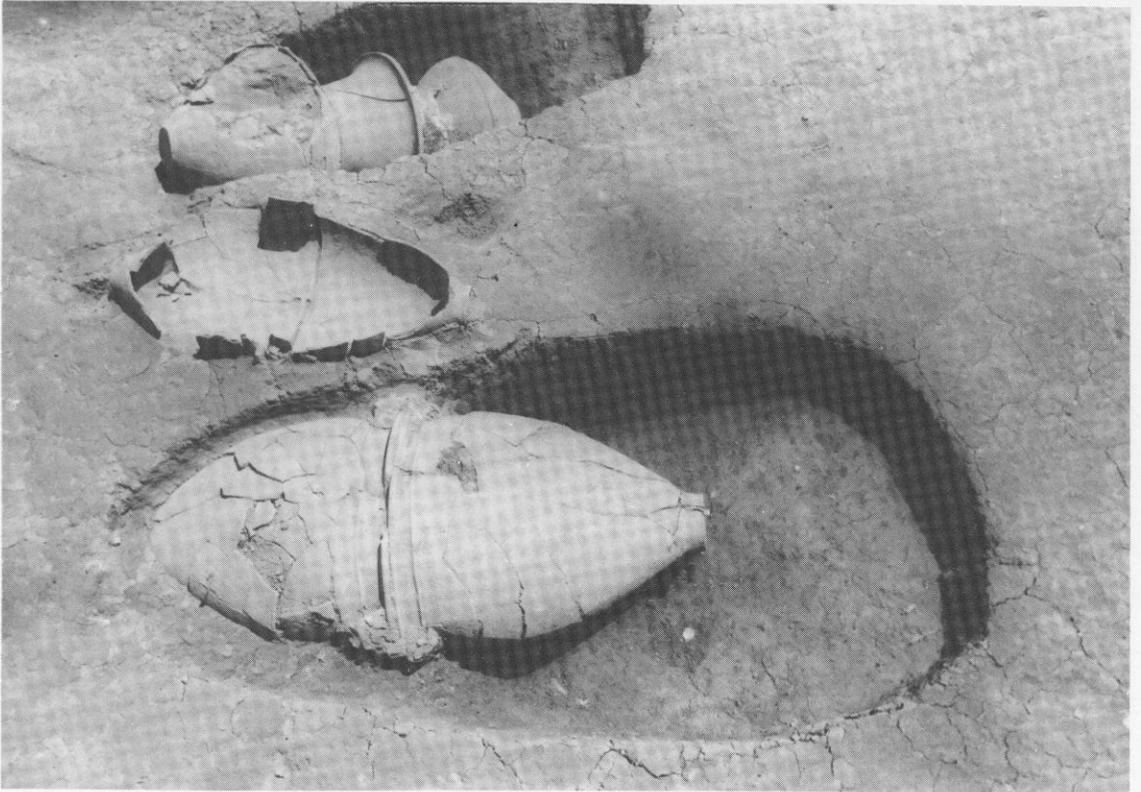
2. 43号甕棺墓



1. 49号甕棺墓



2. 55号甕棺墓



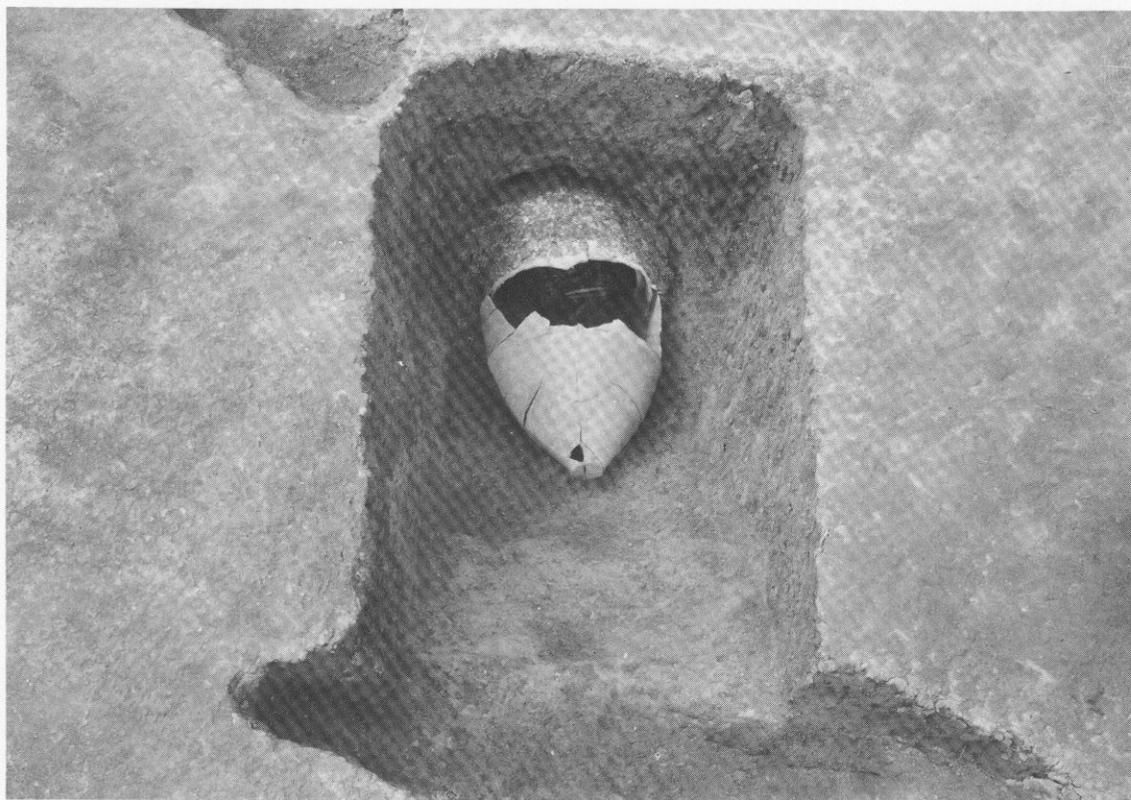
1. 66号・75号・67号甕棺墓（手前から）



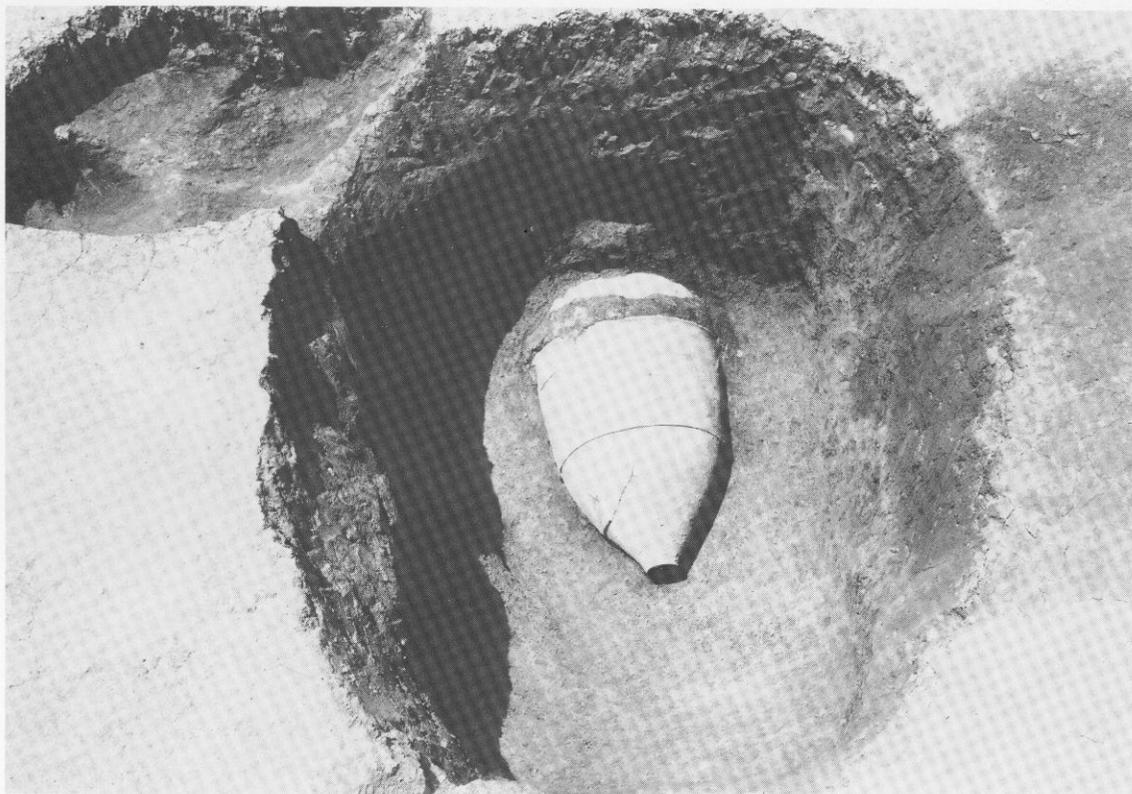
2. 56号（左）・96号甕棺墓



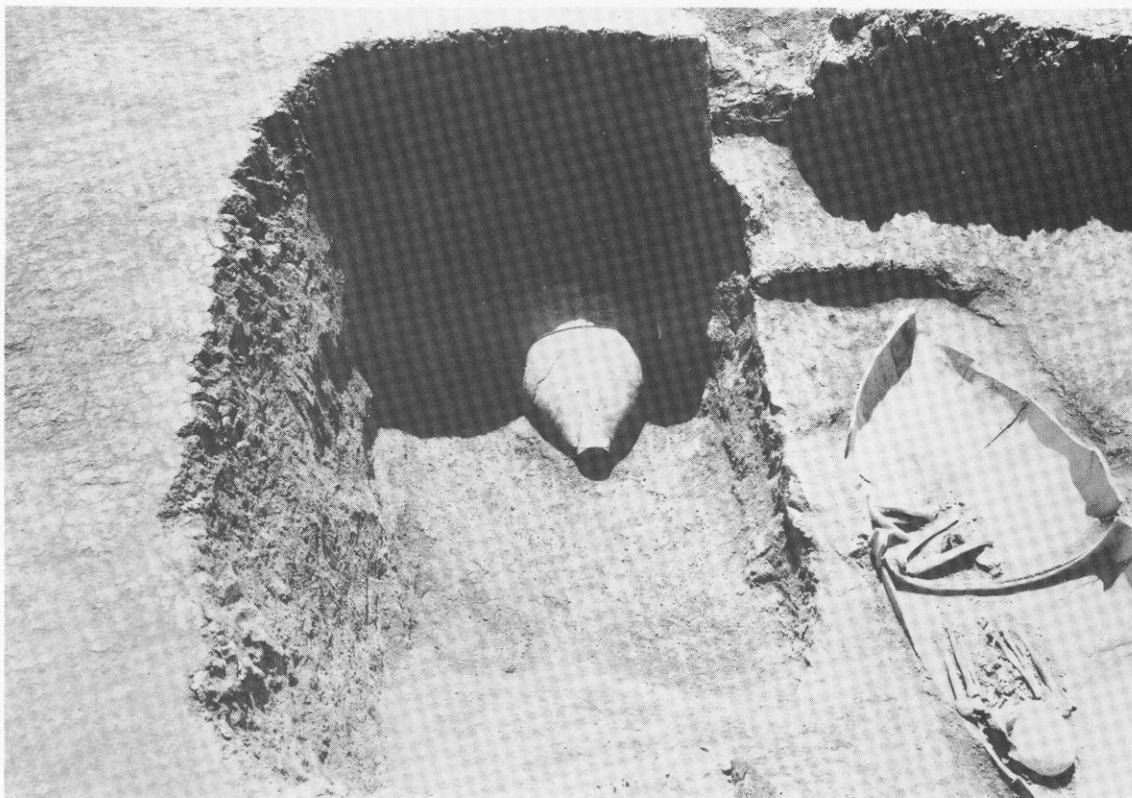
1. 78号甕棺墓



2. 93号甕棺墓



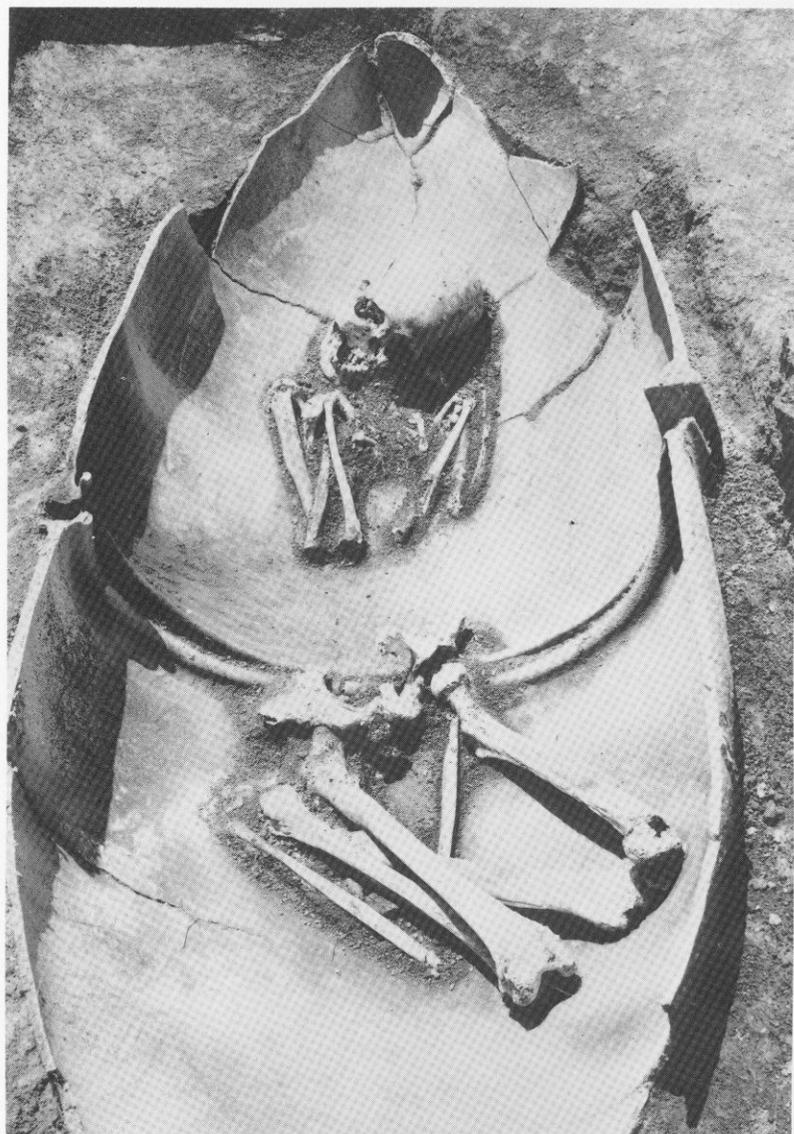
1. 99号甕棺墓



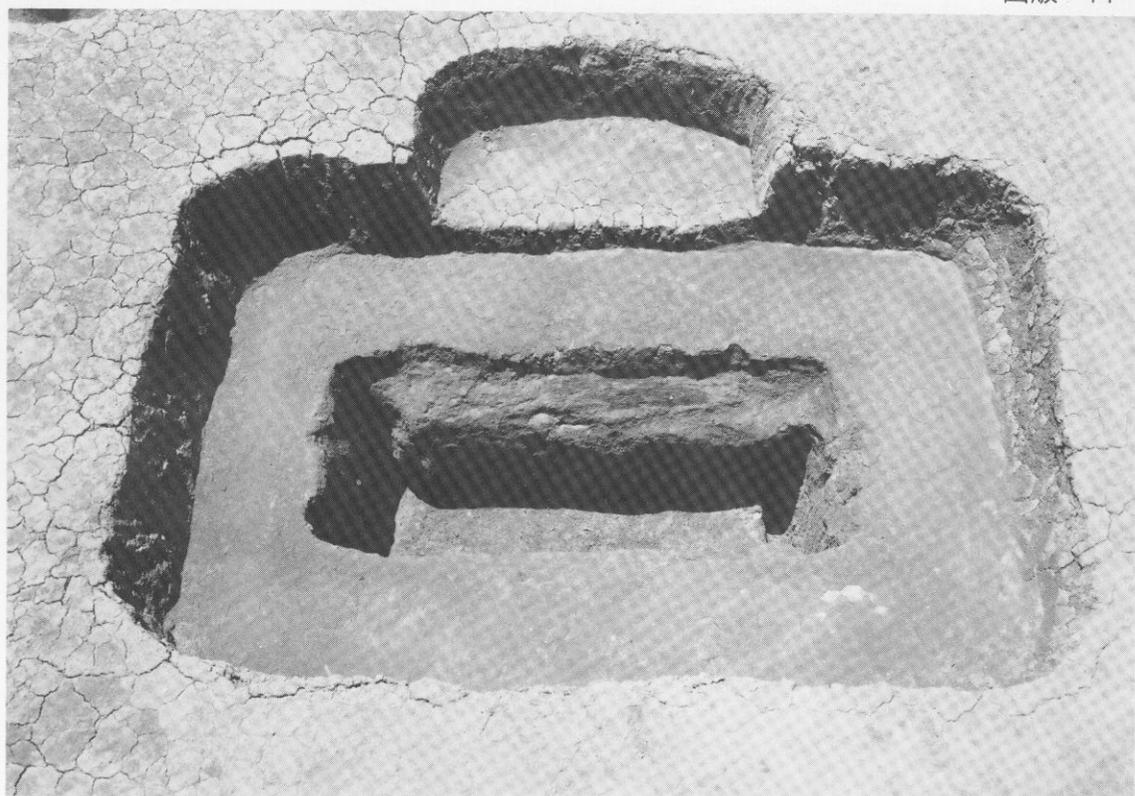
2. 100号甕棺墓



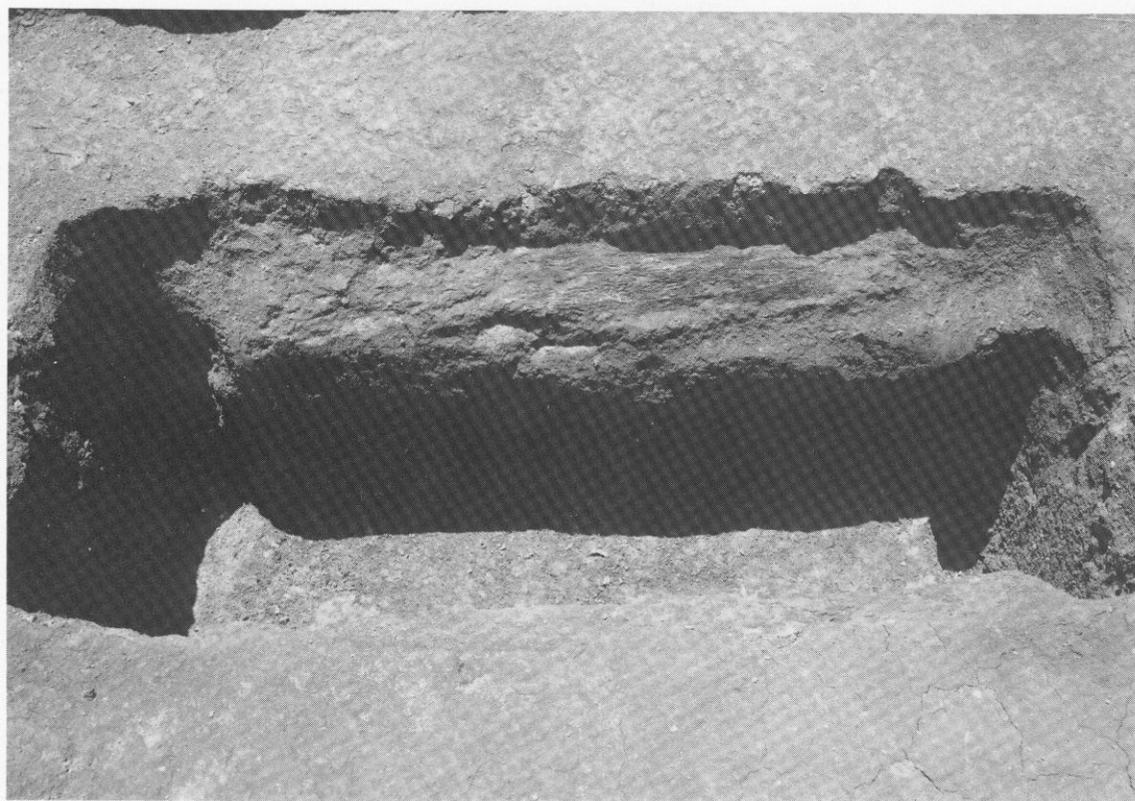
1. 93号甕棺人骨出土状态



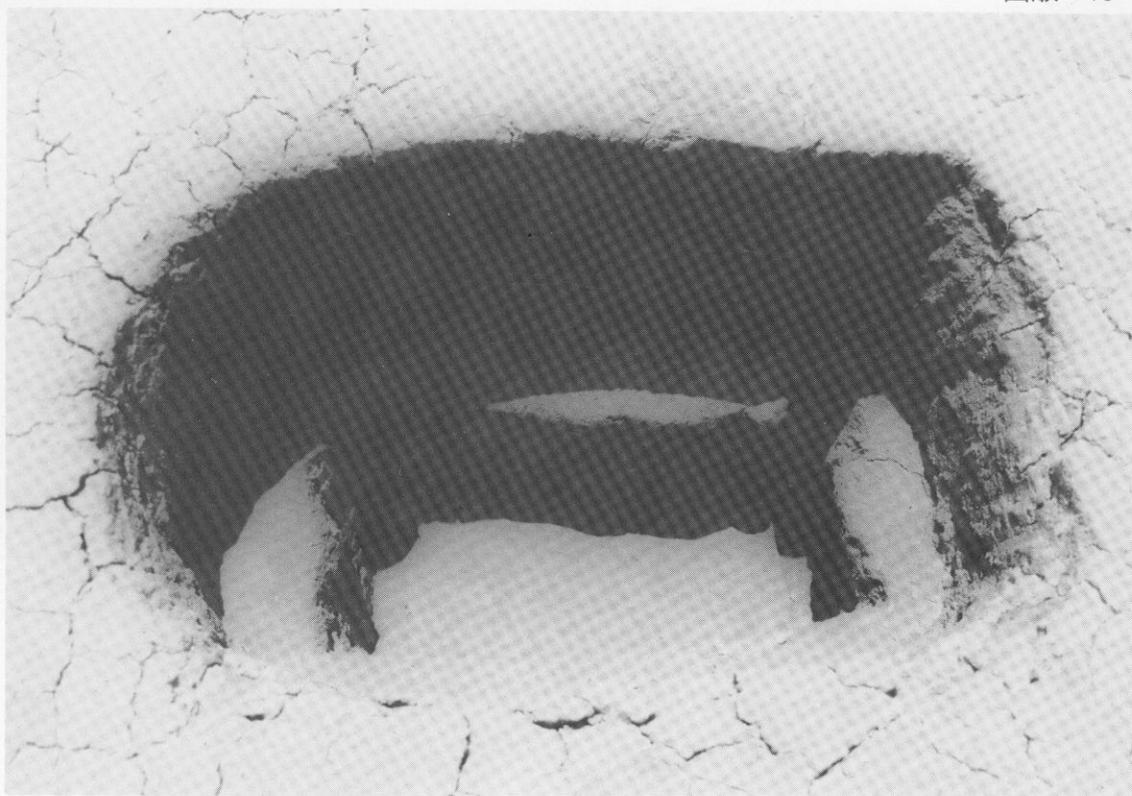
2. 78号甕棺人骨出土状态



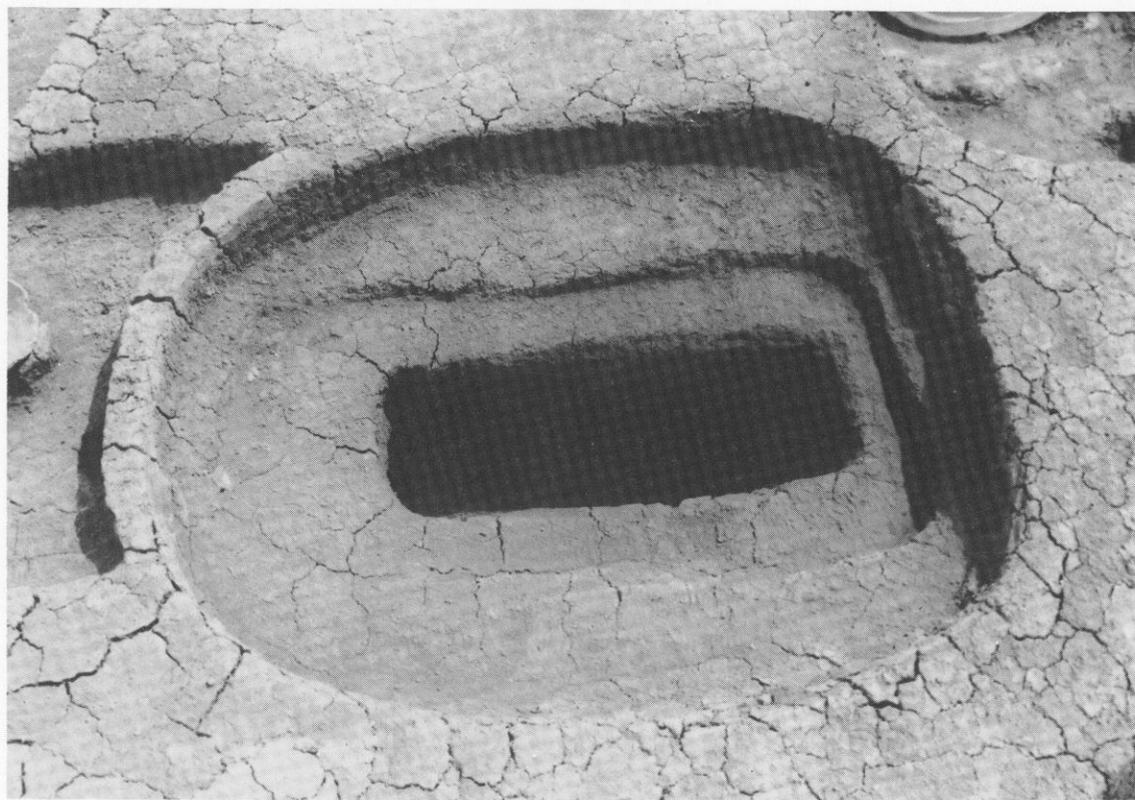
1. 1号木棺墓



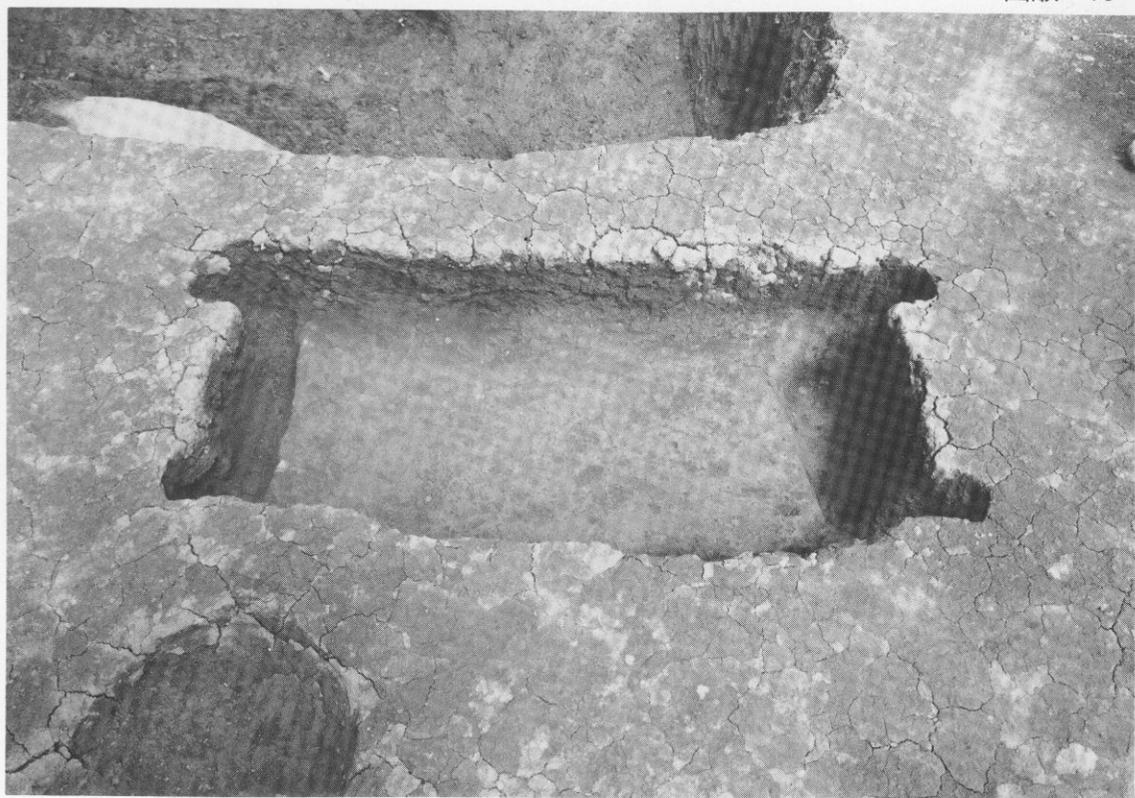
2. 1号木棺墓木板遗存状态



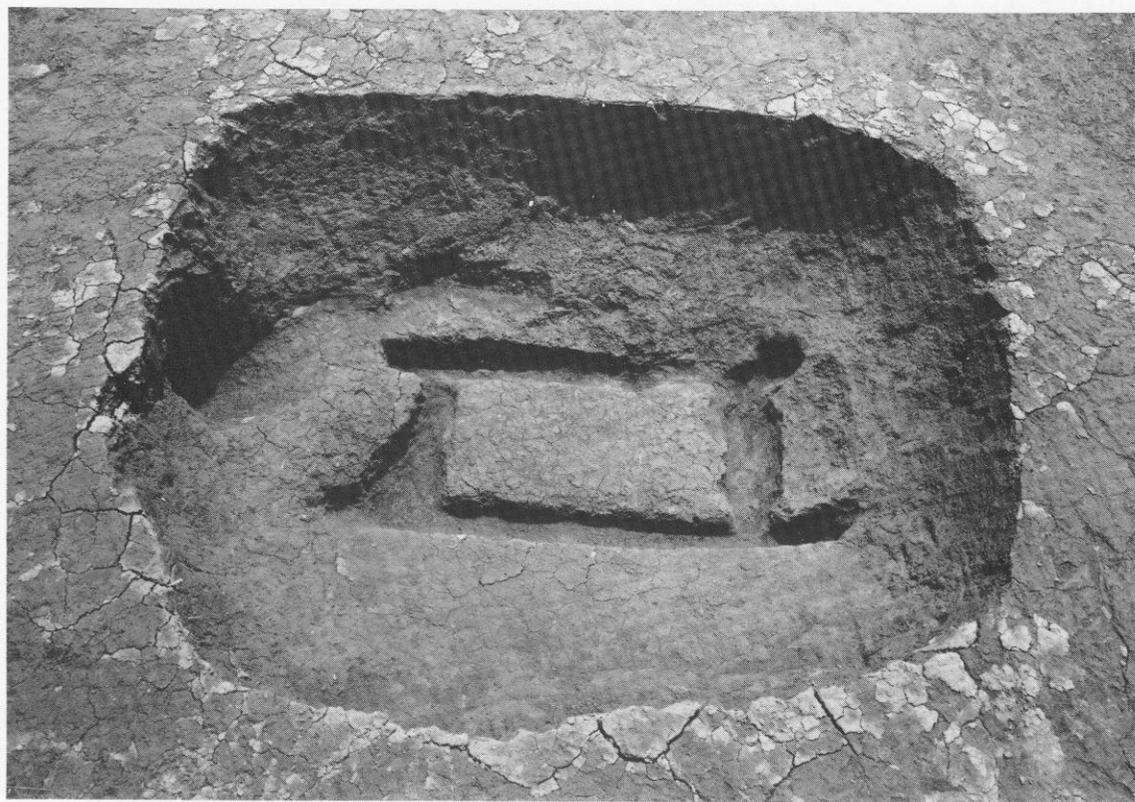
1. 2号木棺墓



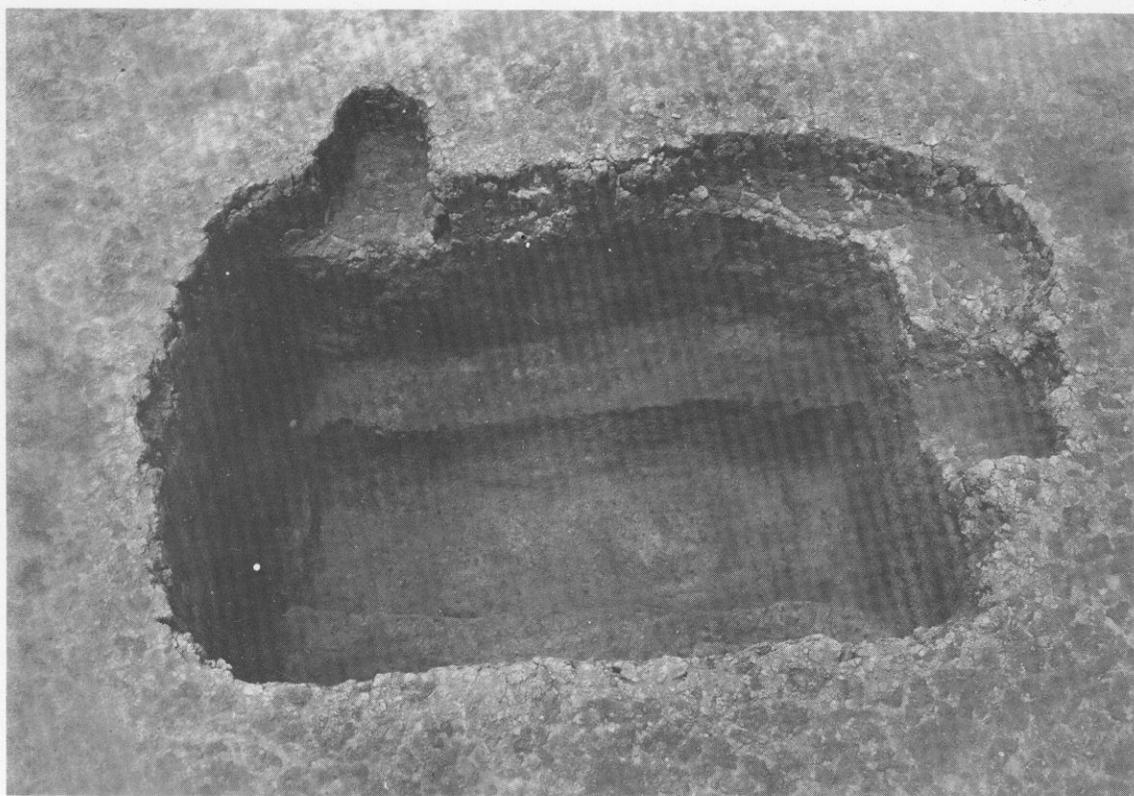
2. 3号木棺墓



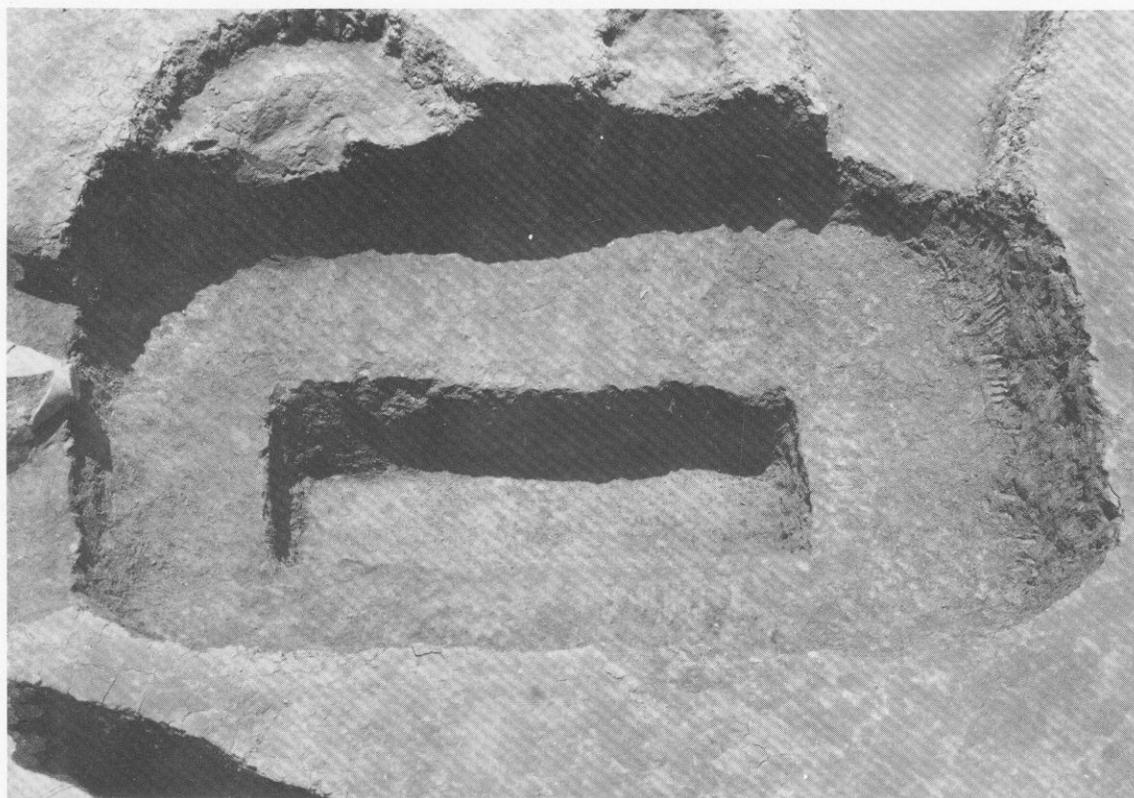
1. 5 号木棺墓



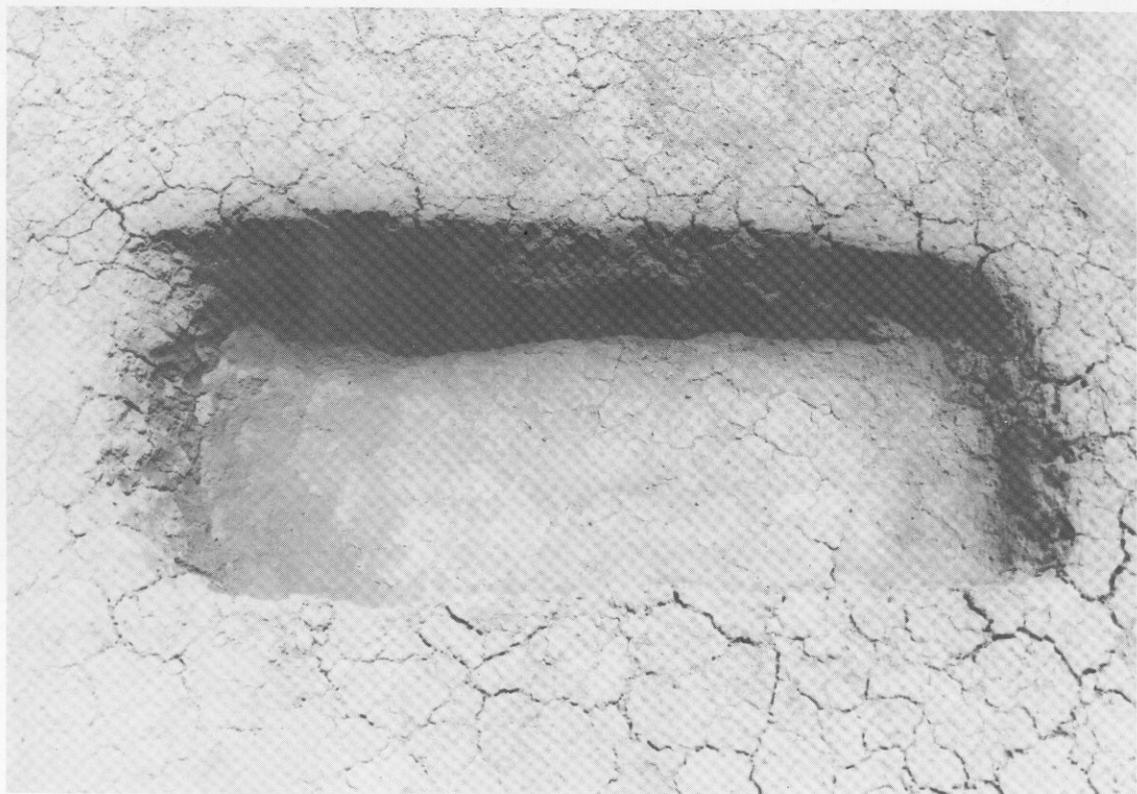
2. 6 号木棺墓



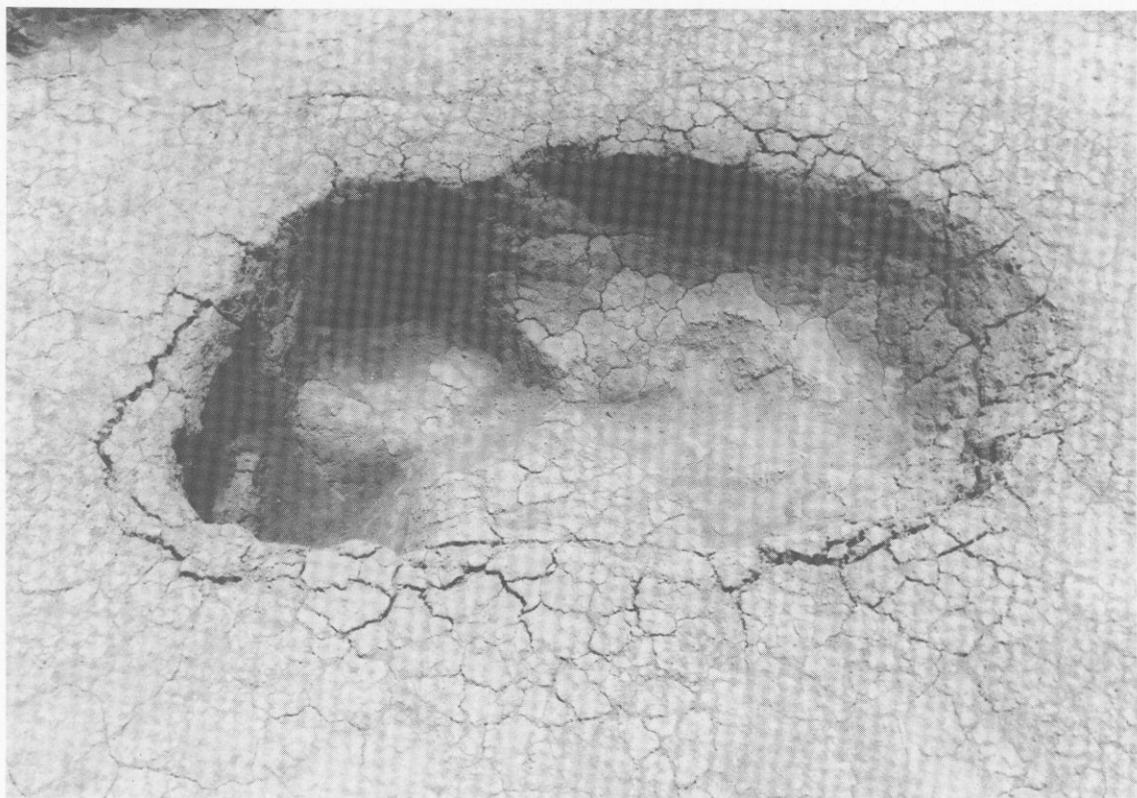
1. 12号木棺墓



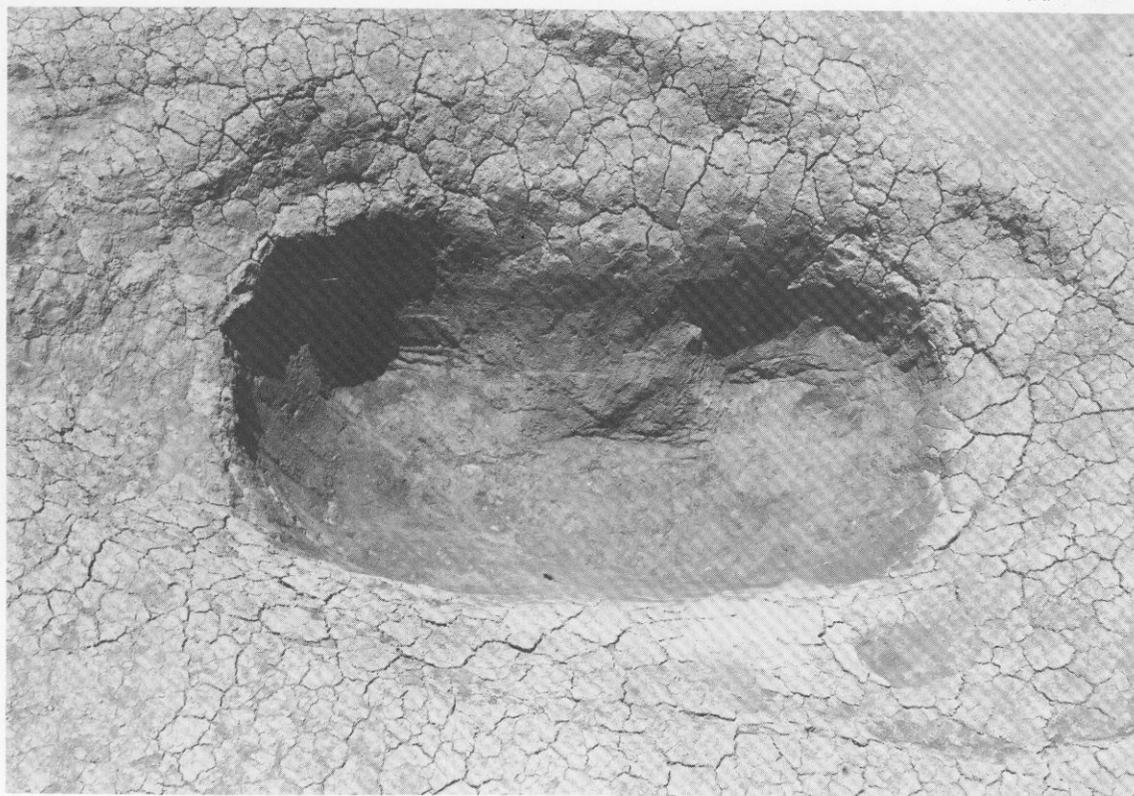
2. 16号木棺墓



1.1 号土坑



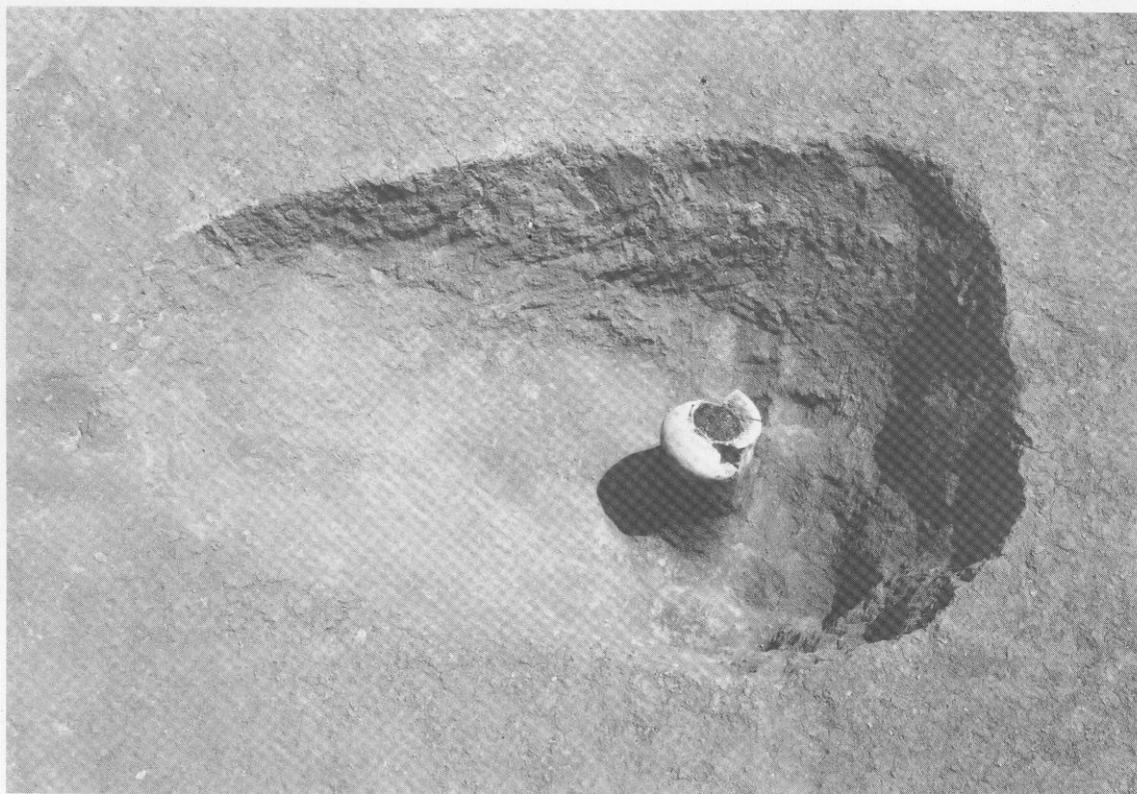
2.2 号土坑



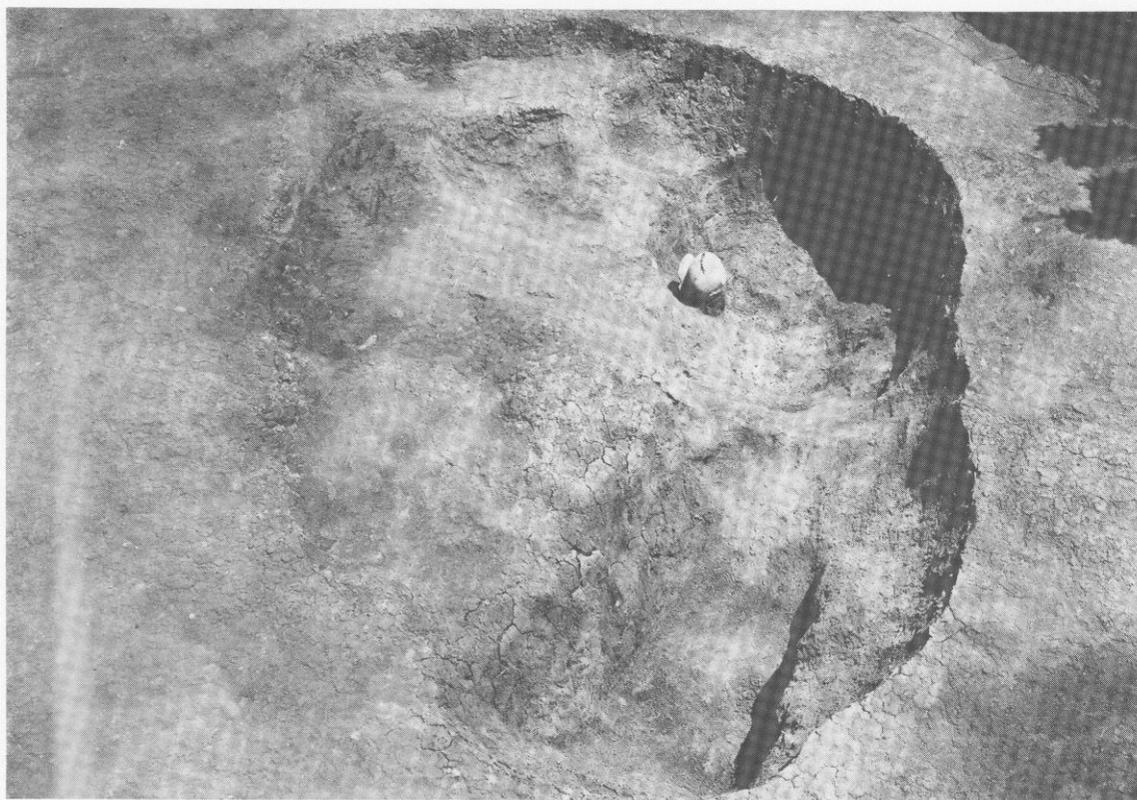
1. 1 号 竖 穴



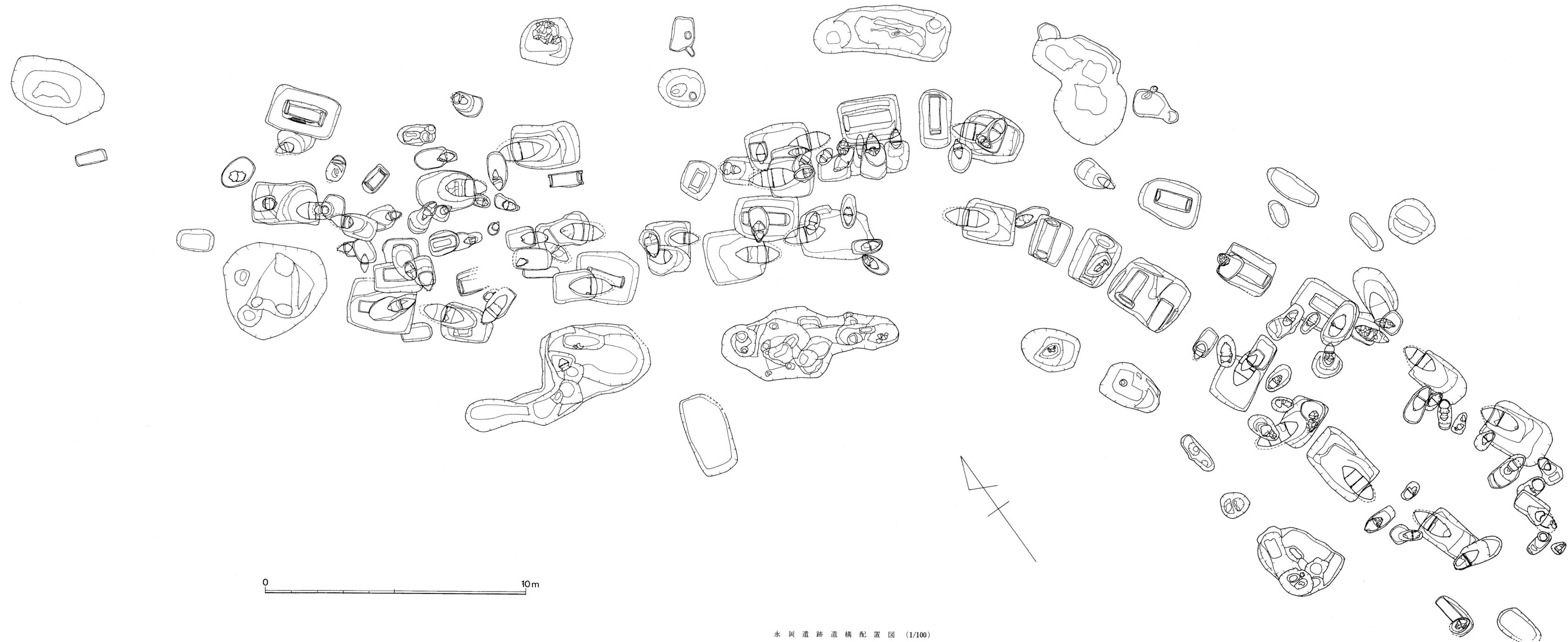
2. 3 号 竖 穴



1. 7 号 竖 穴



2. 15 号 竖 穴



永岡遺跡遺構配置図 (1/100)

永岡遺跡

筑紫野市文化財調査報告書 第6集

昭和56年3月31日

発行 筑紫野市教育委員会
福岡県筑紫野市大字二日市753の1

印刷 赤坂印刷株式会社
福岡市中央区大手門1丁目8番34号